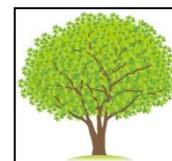


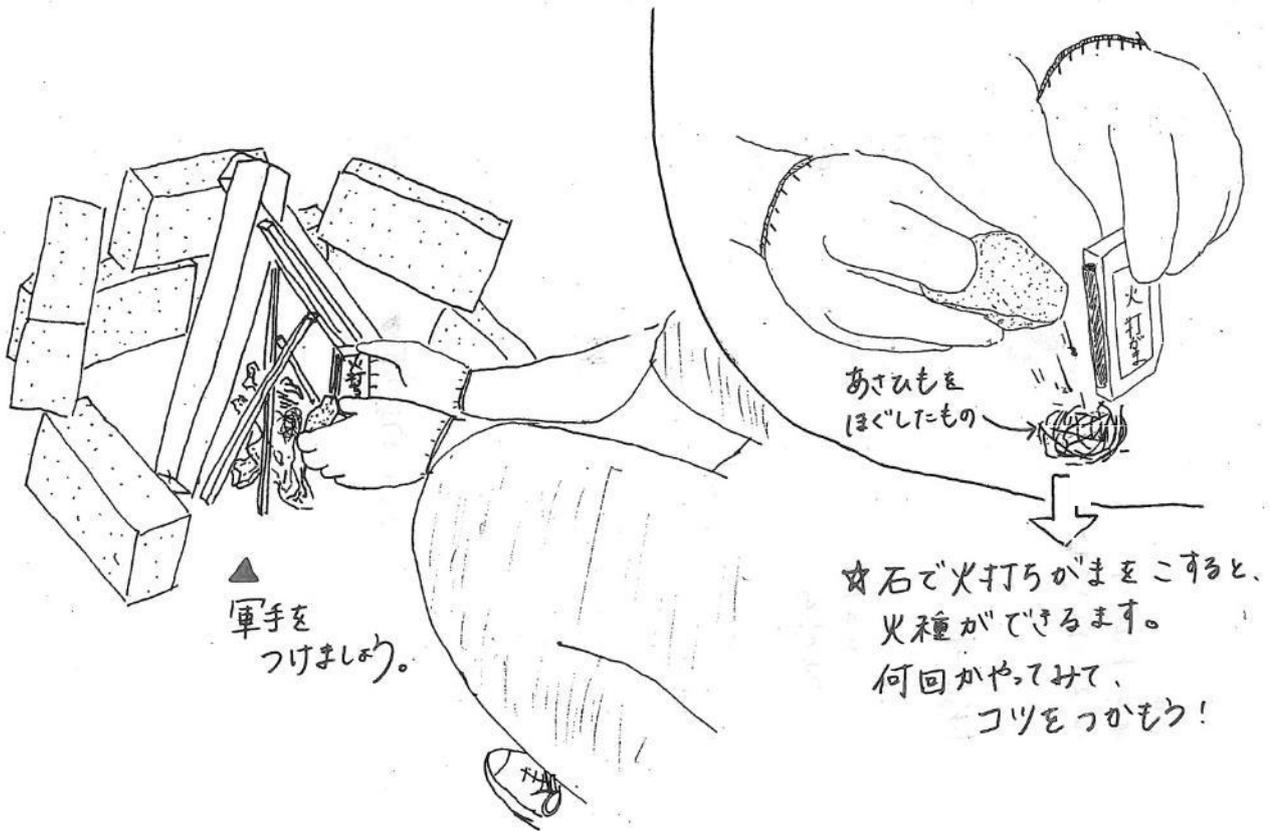
火打ち鎌で火起こし



活動場所	自然の家周辺	自然の家にあるもの	火打ち鎌（40個）、薪（有料）、耐火レンガ、皮手袋、火ばさみ
所要時間	約1～2時間	利用者で用意するもの	軍手、麻ひも（太めのものが良い）
人数	100名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン（綿素材のもの）、軍手（ゴムの滑り止めのないもの）

普段の生活では簡単に火は起こせますが、かつて人々は苦勞して火を手に入れていました。そのような体験を通して、火のありがたみや木の大切さを改めて感じることができます。また、災害時でもこの体験での火の扱いや着火についての知識・経験が役に立つはずです。

火打ちがまで火起こし



とくに大切なこと

- ①火花が出やすい石を見つけてきます。また、火花ができにくいときは石を変えてみましょう。
- ②あさひもに火だねが当たるよう工夫をしてみましょう。
- ③あさひもの下に新聞紙をしいて、あさひもに火がついたらすぐ新聞に燃えうつるようにしておきましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・互いに理解し、信頼し助け合うことができる。 ・自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志を持ち、粘り強くやり抜く。	道徳	「友情 信頼」 「希望と勇気 努力と強い意志」
・火の起こし方を知り、マッチを使わない火起こしを体験する。効率よく火を起こす技術を身につける。・火の起こし方を知り、効率よく火を保つ技術を身につける。また、災害時における火の大切さについてふれる。	総合的な学習	「防災」
・燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、間伐材の燃え方を多面的に考え、実践することができる。	理科	6年「ものの燃え方」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・火打ち鎌は40個ある。配布数やグループの数をあらかじめ決めておく。
- ・薪の組み方は火起こし頁を参照にする。
- ・長袖、長ズボンを着用すること。
- ・ビニール、ナイロン素材の服は火の粉で穴が開くので綿素材の服にする。
- ・軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。

イ) 活動中

- ・薪の束の運搬は、軍手を着用するように指導をする。
- ・できるだけ生徒が試行錯誤できるよう指導をする。
- ・火打ち鎌を使用する時は火種が麻ひもに落ちるように指導をする。

ウ) 活動後

- ・レンガには決して水をかけない（熱いレンガに水をかけると割れるため）。
実習棟裏のスコップ、ちりとり、一輪車で、燃えた灰等は、灰捨て場へ運んで水をかける。灰捨て場は実習棟裏手にある（確認しておくこと）。
- ・レンガはしばらく熱いままなので、冷めたことを確認してから指導者の指示で片付けを行う。
- ・レンガは重いので、気を付けて運ぶように指導する。

3. 安全対策について

--